

保育のグローバル化と英語保育者養成のニーズ

～ TPP で急増する英語幼稚園、外国人保育士への対応を急げ～

鈴木 克 義

はじめに：TPP 交渉参加で、海外発の英語プリスクール、外国人保育士がやって来る！

安部首相は 2013 年の 4 月、女性の人材を活用することを柱とする成長戦略の考え方を打ち出し、今後 5 年間で保育所の定員を 40 万人分増やすと表明した。(2013-4 朝日新聞)

試算によると、これには 7 万 4 千人の保育士が新たに必要になり、現状でも不足している保育士のニーズを、短大保育科等の養成校のみで満たすことは到底不可能である。単純に計算して、1 年で 1 万 5 千人近い定員増を全国 200 校余の養成校で行うことは、18 歳人口の減少もあり、現実的ではない。

そこで政府が打ち出したのが、保育士の資格を持ちながら働いていない潜在保育士の活用だが、高度化・多様化する保育士への期待に反して、必ずしも高いとはいえない待遇面や労働条件で、躊躇する有資格者が多いようだ。実際には新規に就労する保育士 2 万人に対して、辞めていく保育士は年間 3 万人もいる。(2013-7-24 NHK クローズアップ現代)

おりしも、保育の新制度を議論している政府の「子ども・子育て会議」の部会では 8 月、早ければ同年度中に始まる「小規模保育」の認可制度の大枠を固めた。(2013-8 朝日新聞)

これは、定員 20 人未満の小規模保育所では、保育士の割合が 50% 以上で認可されるというもの。つまり、外国人など日本の保育士の資格を持っていない職員が半数近くいても、今後は認可保育所として補助金をもらえるようになるということである。

また厚生労働省は、待機児童の解消を進めるため、株式会社の認可保育所への参入を広げるよう、地方自治体に要請する方針を明らかにした。(2013-5 朝日新聞)

着々と進む、こうした地ならしの背景には、同年 7 月から政府が参加を始めた TPP による、人材やサービス交流の自由化がある。

TPP (環太平洋経済連携協定) とは、従来の EPA や FTA などと同様、交易の自由化を進める協定だが、主に二国間で結ぶ EPA や FTA に対して、より包括的な人材やサービスなどの自由化も含む、多国間の経済交流の色彩が強い。しかしアメリカが参加してからは、米企業の日本への参入障壁をなくす目的で使われる例が目立つようだ。

典型的なのは、4 月の TPP 日米事前協議で合意された、郵政傘下・かんぽ生命のがん保険新商品の不認可方針である。これはアフラックなどアメリカの保険会社が強い分野で、麻生財務・金融相は「少なくとも 5 年間は認可しない」と表明し、かんぽ生命は代わりにアフラックのがん保険を、全国すべての郵便局で売ることになった。(2013-4-12 朝日新聞)

また、これに前後して自民党の教育再生実行本部は、英語能力を測る TOEFL を大学入試やキャリア官僚の採用試験に義務づけるなど、海外で活躍できる人材の育成を目的とした教育政策を安倍晋三首相に提言した。(2013-4-8、5-5 朝日新聞)

TOEFL は元来、アメリカの大学に留学する外国人に義務づけられた英語テストであり、受験料が 225 ドル (約 2 万 2 千円) もかかる。なぜ日本で普及している英検や TOEIC ではないのかと疑問に思うニュースだが、これも TPP がらみでアメリカから突きつけられた優遇策と考えれば、理解できる。

アメリカはつまり、農産物や工業製品にかけられる関税が極限まで下げられた今、最後に残された非関税障壁が「言葉」、つまりアメリカ企業の日本進出を阻むものは日本語であると考え、日本を英語でビジネスができる国にすることを求めているのである。

英語が使いこなせる日本人を育成するためには、幼少期からの英語保育が欠かせない。(2010、2011 鈴木) そこで考えられるのが、英語圏からの外国人保育士の導入、英語が使える日本人保育者の養成、英語圏での保育者養成や研修、そして英語圏の民間企業による保育所、英語プリスクールへの本格参入である。

実際、アメリカ発のカリキュラムを使った英語プリスクール・アフタースクール(学童保育)も増えているし、仙台で永年英語教育に取り組んできた、明泉幼稚園発祥の GrapeSEED というカリキュラムを導入して、英語保育を始める幼稚園が静岡県内でも急増している。そこで働く教諭はネイティブとは限定されていないので、本学の卒業生も採用されており、近い将来、保育の現場では外国人と日本人の保育者が英語でコミュニケーションを図りながら、英語保育をする姿が、普通に見られるようになるだろう。

すでに、静岡県の担当部局では、外国人保育士の受け入れに向け、準備を始めていると聞く。いずれ運転免許と同様、外国で取得した保育士の資格は、日本でも使えるようになるだろう。養成校でもこのような保育のグローバル化に向け、外国人と一緒に働く保育者の育成が急務である。

外国人保育士が導入される、これだけのエビデンス

保育と同様に、人手不足の業界としては看護や介護が思い浮かぶが、これらはすでにグローバル化されている。2006 年、小泉首相の時代に、EPA (経済連携協定) によってフィリピンとインドネシアからの看護師・介護士の導入が決まり、2008 年から来日しているが、3 年以内に日本語で国家試験に受からなければいけないという滞在条件が壁になり、帰国を余儀なくされたり、各自治体で独自に試験を行って准看護師の資格を出し、滞在延長を図っている地域もある。これを受け、政府は外国人医師・看護師の雇用を解禁する医療特区を設ける方針を示した。(2013-10 毎日新聞)

保育士は看護師ほど日常的に命に関わる仕事をする訳ではないし、保護者はむしろ英語による保育を歓迎するので、外国で取った保育士の資格があれば、日本語力は問わないという保育所も増えるだろう。とにかく喉から手が出るほど欲しい保育士である。小規模保育の規制緩和で、それでも認可保育所になれる。

2013年の3月、オーストラリア大使館の主催で「グローバル時代における保育士・幼稚園教諭の養成」と題するフォーラムが開かれた。大使館のマーケティング部門がこのようなイベントを主催するのは初めてだと思われるが、当日は名古屋短期大学保育科でオーストラリア実習を担当している小川雄二教授の話や、受け入れ側のImagine Education Australiaという教育機関のディレクター、それに2011年から保育英検を実施している社団法人、保育英語検定協会理事長の話が聞けた。この中でも、TPPによる人材交流の話題が出た。いずれTPP参加国であるオーストラリアからも、保育士の資格を持ったオーストラリア人、あるいはオーストラリアで資格を取った日本人や外国人の受け入れ要求が出されるに違いない。オーストラリアでは最短で6カ月から、保育士の資格が取れるそうである。

グローバル化の進展で、英語で保育をする幼稚園やプリスクールが急増しているのは、2012年の本学紀要で述べたとおりだが（アルクのサイトで現在349園、他にも静岡県内で加藤学園幼稚園、MEK イングリッシュ・プリスクール、山梨のマリア国際幼稚園などがある）、何らかの形で英語活動を採り入れているのは幼稚園の大半、保育園でも3園のうち約2園の割合で実施している（昨年度、鈴木が実習巡回で調査）。富士市のように、公立の保育園でALT（外国人助手）による英語活動を実施している自治体もある。

また、ほぼすべての幼稚園や保育園で外国人、またはハーフの子どもが在籍しており、以前は日系ブラジル人が多かったが、最近は中国や韓国、フィリピン人など、国籍が多岐にわたっており、子どもはすぐに日本語を覚えるが、保育者と親とのコミュニケーションは英語で、という場面が増えてきた。

以上のような理由で、英語が少しでも使える保育者がほしいというニーズは増えており、2012年から保育英検協会では合格者の人材データベースを作り、当初2級以上の合格者を登録していたが、幼稚園・保育園関係者から引き合いが多く、4級以上の合格者から登録可能にした。同年から両者を引き合わせる就職説明会も年2回開いており、盛況である。また民間企業でも、2013年3月23日の日本経済新聞の記事で、バイリンガル保育所を展開している拓人という会社が、英語が話せる保育士の求人を一気に70人、保育英検協会に依頼してきたそうだ。

本学では2000年度から英語英文科の中に、幼児英語コース（のちに子ども英語コースと改称）を設置し、保育科の協力で幼稚園教諭免許を取れるようにして、多い年には20名以上、2011年度までの累計で125名の卒業生を、幼稚園やプリスクールに送り出してきた。中には英語イメージ教育で有名な加藤学園幼稚園で、英語クラスの担任を務めている者もいるし、英語活動に熱心な牧之原市のすずき幼稚園や、園長自身がアメリカの大学卒で英語を教えている「るり幼稚園」など、複数の卒業生が活躍している園もある。山梨のマリア国際幼稚園では、本学の卒業生が100%英語で保育する担任を務め、この春から英語の小学校も開設している。

まとめてみると、保育士の深刻な人材不足、TPPによる外国からの人材自由化要請、英語保育のニーズ、認可要件の緩和、これらを総合して外国人保育士の導入は時間の問題といえ、一緒に働く日本人の英語保育者に対するニーズも急増しそうである。

名古屋短大の海外保育実習と、オーストラリア留学制度

それでは保育科を持つ養成校は、この保育のグローバル化ニーズに対して、どのような対応をしていけば良いのだろうか。

本学と相互評価を過去に実施している名古屋短期大学保育科では、同じ学園内で2002年に四年制の桜花学園大学保育学部ができ、短大保育科の志願者が激減した。そこで2005年度から、保育科1年生を対象に約2週間のオーストラリア保育実習を実施し、2012年の実績では、入学定員240名の内、95名が実習に参加している。その結果、入学志願者が増加して、日本全国から学生が集まるようになったそうである。これは過去に「子ども英語コース」の看板を掲げていた本学英語英文科も同様で、仙台や長野、相模原といった所から入学してくる学生がいたが、看板を下ろしてからは来なくなった。

名古屋短大ではさらに、専攻科の学生を対象に「留学タイプ」の実習を設けており、オーストラリアの教育機関で最初3カ月の語学研修、その後6カ月の保育実習を経て、Certificate IIIという保育士の資格を取得できるようにしている。その後、実際にオーストラリアの保育園に就職した学生もいるようで、英語保育を現地で体験した上で、日本に戻ってくることもできるわけである。

この留学タイプは2009年度から始め、当初は6名の参加者だったが、2011年以降は毎年10名余に増えている。留学後の卒業生（2012年度、10名）の動向は次のとおり。

- A オーストラリアの保育園に就職（時給\$20、フルタイムだと\$26） 保育英検2級
- B 渡豪費用を貯め、2013年6月にオーストラリアに渡り、就職する予定 保育英検2級
- C 宮城県石巻の被災した子どもを支援するNPOに数カ月勤務、その後オーストラリアで就職希望
- D 愛知県内のインターナショナルプリスクールに就職（その後アメリカの日本人向け園を希望） 保育英検2級
- E 名古屋市内のインターナショナルプリスクールに就職 TESOL取得 保育英検準1級
- F 東京のインターを希望するが叶わず、英語保育の私立保育園に就職 保育英検2級
- G 名古屋市内の私立保育園就職（オーストラリアからホームステイ受入れ） 保育英検2級
- H 多治見市公務員保育職 保育英検2級
- I 蒲郡市公務員保育職 保育英検2級
- J 留学から帰って専攻科2年を休学中。数カ月東京のインターで働く。現在は愛知県内でアルバイト。お金を貯めてオーストラリアに渡る。 保育英検2級

上記のように全員が国内外の保育職に就職しているが、Dの卒業生のメールによると、オーストラリア滞在中に自分の日本人としてのアイデンティティを強く意識するようになり、アメリカの日本人向けの園で、日本人の気質や日本の文化を伝えたいと思うようになったという者もいる。（保育英検の詳細については鈴木2012及び保育英検協会サイト参照）

保育英検は1名が準1級、それ以外全員が2級を取得しているが、留学体験は必ずしも海外志向の学生を作り出すわけではなく、日本人の保育者としてのアイデンティティを呼び覚ますようである。

バイリンキッズに!?

「英語幼稚園」増えています



米国人教師と英語で語り合う園児たち—名古屋市昭和区で

未就学の子もたちが英語ばかり使っている「英語幼稚園」が各地で急増している。政府が国際的な人材育成の一環として、小学校で英語の教科化や、高校で「TOEFL」必修化など進められ出したことが背景にある。親たちはわが子をバイリンガルにしようと願うが、現場ではどうしているのだろうか。(相坂 穰)

自然に音を吸収

英語幼稚園「インタナショナルキッズアカデミー（IKA）」(名古屋市昭和区)には一歳半〜六歳の園児約百人が通う。年長組の教室。担任の米国人教師キース・ヒアマンさん(右)が、「Safety」(安

全)をテーマに話し始める。約十人の園児に英語で、災害発生時の行動を問い掛けた。すかさず、最前列に座った男の子が答えた。「When an earthquake we go under the table」(地震の時は、机の下に入る)。「別の女の子が手を挙げて続けた。「If safe we go outside」(安全なら外に出る)。「ヒアマンさんは「How many」(何)を指さす。長谷川香

「端な「セリリンガル」は、文部科学省認可や自治体立の施設ではないため、公的補助はない。文科省に認可された私立幼稚園の平均は約一万一千円、名古屋市立教育機関の平均は約一万八千三百円。運営社長は「園児の親は、医師や経営者、ITエンジニアなどが多いが、普通のサラリーマンもいる。子どもは将来のためならある程度の出費は仕方ない」と考える人が増えている」と話した。

小学校で教科化、高校「TOEFL」必修化など背景

英語幼稚園は、二〇〇二年に全国で二十園に満たなかったが、昨年は二十倍の百四十八園と、急激に増えている。その背景は国者間で分かれる。鈴木克義・常葉大教授(英語教育)は推進派。環太平洋連携協定(TPP)参加に前の関係の障礙が下がる。次なる障礙は日本人の貧しい英語力。早期の英語教育は必然の視されてきた。長女を英語幼稚園に通わせたという「幼い時に音楽の「絶対音感」を養えないのと同じ。子どもは言語を音やリズムで覚える。娘も、複数の単語を一連

「早期教育は必然」「情緒影響が心配」 識者警告

「早期教育は必然」「情緒影響が心配」 識者警告

の文として捉える能力を得た。今回の取材は同行してもらったが、「J」の子たちの発音が良ければセリリンガルの懸念は「欧州」の園児で幼い頃から多量に英語を自然に話す。そういう地じたり、学ばざる英語が身城の子もセリリンガルになりに行っていると思える。「こころ」情緒面への影響を指摘する。通園費の高さも言及し、「一方、ロンドン大学院に留まり所得がある親じゃないと私学経験がある高橋(旧姓・溝)さん。親の経済力で、子ども七、七郎・名城大准教授(社会)の教育に格差が出る社会に道徳言語学)は懐疑的。「母語で見感を感じる。私自身、英語を学問で、考える認知能力を発達したのは中学生になってからだ。まだ早い時期に、英語を学ばせ、遅くなかった。子どもの心(こころ)情緒面にとり、影響が出るの(こころ)心配だ。い(い)い(い)い(い)話した。

中日新聞の記事 (2013-7-27 夕刊)。筆者のインタビューが載っている。

仙台の英語幼稚園カリキュラム、GrapeSEED のどこが違うのか

英語イメージ保育の幼稚園といえば、20年の実績がある沼津の加藤学園幼稚園が有名だが、ここ数年、英語幼稚園という関係者から必ず名前が挙がるのが、仙台市郊外にある明泉幼稚園である。

アメリカ人のクリスチャンたちが、聖書・マルコ 16 章 15 節の「全世界に出て行って、すべての人に福音を宣べ伝えよ」という使命をおびて 1967 年に設立したというこの幼稚園は、開園当初から 40 年以上英語教育を行っていたが、2006 年から一日の保育の大半を英語で行う 4 歳児からの「イメージプログラム」を導入し、2013 年からは「明泉プリミアスクール」と改称して、独立性を強めている。(宮城明泉学園ウェブサイトより)

ここの英語プログラムの長は、幼稚園教諭の資格を持ち、正式な研修を受けた外国人教員が中心になって、グループの会社が開発した GrapeSEED というカリキュラムを使って英語を教えていることで、教材も平易な英語で書かれたストーリーブックやピクチャーカード、ポスター、生徒用の CD や DVD といった、一見してきわめてオーソドックスなものである。

山梨のマリア国際幼稚園が英語教材やカリキュラムを一切使わず、日本人の教諭による自由な英語保育で成果を挙げているのと、対照的である。(2010、2011 鈴木)

ここの教材を見てみると、いかにもアメリカ人が作った子ども向けの教材という感じで、ネイティブの子どもがこれを使って英語を学習したとしても違和感はない。実際に、アメリカでも教材として使用されているというのが、その性格を表しているだろう。

カリキュラムにはこれら教材の他に、パーティカルフォニックスという、文字と発音の関係を習得させるプログラム、EEE(Extended English Environment) という、家庭でも英語に触れさせる環境づくり、さらには卒園児の小学生を対象に、週 3 回放課後にレッスンをを行うフレンドクラブも含まれている。



明泉プリミアスクール (HP より)

以前は「明泉 STANDARD」と称していたこのカリキュラムは、GrapeSEED と名前を変えてから教員の研修に力を入れ、子どもの発話を引き出す問いかけなどを訓練するようになって、子どもがどんどん英語を話すようになったそうである。

実際、私も明泉プリミアスクールの様子を参観させてもらったのだが、子どもたち同士が自然な発音で英語を話しており、感銘を受けた。ここは他の英語幼稚園と同様、人気が高く、プリミアに入れなかった子どもは、レギュラークラスに入ってもらっているようだ。

ディズニー映画スタジオのような GrapeSEED 開発会社

この夏、私は娘が以前通っていた加藤学園幼稚園から紹介を受けて、GrapeSEED のスタッフと一緒に静岡県内の幼稚園やプリスクール、子ども英語スクールを回ったのだが、あらためてカリキュラムの多様性と保守性、英語保育へのニーズ、それに英語ができる日本人保育者の必要性を強く感じた。

英語スクールの中には、見学は快く応じてくれたものの、撮影は一切禁止、カリキュラムの掲示物さえ写させてくれない所もあった。これといって変わったカリキュラムでもないのに公開したくないというのは、どこかの真似をしていると勘ぐられるのが嫌だからか。

その点、明泉幼稚園はオープンで、すべてを見せてくれたのは気持ちが良かった。プレミアスクールのレッスンやアクティビティはもちろん、レギュラスクールの英語レッスン(これももちろん GrapeSEED 使用)、放課後のフレンドクラブまで参観することができたのは、「私たちがこれを広めていく」という使命感と、自信の表れのように感じた。

さらに、他所ではまず公開することはない、カリキュラムの開発部門まで見学させてもらえたのは幸運だった。

GrapeSEED は、明泉幼稚園と姉妹法人の関係にある GrapeCity 株式会社で開発されており、その外観はまるでフロリダのディズニーワールドの中にある、ハリウッドスタジオのようである。中身も今どきの、CG を駆使するアニメーターや音楽プロデューサーがいて、実際にディズニーのスタジオで働いていたスタッフが、GrapeSEED のキャラクターをデザインしているのも、子どもたちに受け入れられる要因かも知れない。



幼稚園長に受け入れられる導入コーディネーターたち

GrapeSEED の営業スタッフは、まるで営業と呼ぶのが憚られるほど商売っ気を感じさせない人たちで、実際、この人たちの名刺の肩書は「導入コーディネーター」となっている。

いわゆる物販の営業のような押しつけがましさを全く感じさせず、園のコンサルタント的な雰囲気を感じさせるところが、お寺のお坊さんが多い幼稚園長にも、受け入れられる所以だろう。

いいものだから、すべて公開し、気に入ってもらえるまで十分に時間をかけて導入する。導入してからも、長いお付き合いで研修やフォローアップを行う。そんなスタンスで、仲間を急速に増やしているのが GrapeSEED なのである。

GrapeSEED の導入コーディネーターと、研修を受ける本学英文科の卒業生

静岡県内でもいくつかの幼稚園に同行してわかったのだが、長年にわたって近所の英会話

スクールにネイティブの講師を派遣してもらって、英語レッスンは続けてきたが、どうも効果が上がらない、何とかしたいが方法がわからない…といった園長の多いこと。そこに現れたのが、きちんとしたカリキュラムで、子どもが小学生になってからもフォローしてくれる GrapeSEED だったので、これに賭けてみようかという気にさせられるのである。

実際、私の目の前で導入を決断した幼稚園長が複数名現れ、本学英语英文科で幼稚園免許を取得した卒業生を雇ってくれた園もあるので、これは無関心でいる訳にはいかない。東海地区での導入目標が100カ園だそうだから、気がついたら周りに GrapeSEED の幼稚園や保育所が溢れ、英語ができる保育者の求人が矢のようにやって来るという事態も起こりかねない。いや、実際にそのような求人がすでに来ているのだが、需要に全く対応できていない。養成校として、いつまでもその流れを看過している訳にはいかないだろう。

グローバルなカリキュラムからローカル対応へ？

私が当時3歳になる娘を連れて、子ども英語スクールを探し歩いた15年前、コミュニケーション型なカリキュラムで多くの幼稚園やスクールに採用されていたのが、PLS メソッドである。これはそれまでの、意味につながりのないフラッシュカードやゲーム中心のカリキュラムと比べ、1つのカードに1つの文章とそれを意味する絵が描いてあり、画期的なものだった。それを覚えた子どもに、プラスチック製のチップで報酬を与える仕組みも、よく考えられていた。

ところが、当時私が娘を通わせる決断をした PLS スクールの名前が、今 GrapeSEED 導入校リストの中にある。他にも、PLS を熱心に採り入れていた静岡県西部の幼稚園が、今や GrapeSEED のリストに加わろうとしている。この流れはしばらく続くだろう。

実は GrapeSEED (明泉 STANDARD) を最初に導入したのは韓国の幼稚園で、すでに300以上の園で採用されているそうだ。韓国での早期英語教育の高まりと、新しいものを積極的に導入しようとする国民性を考え合わせると、この動きは十分理解できる。今では、アメリカにも逆進出しているらしい。

こうしたグローバル採用の動きが、GrapeSEED の内容を世界のどこでも通用する、普遍的なものにしている要因だが、意地悪な見方をすれば、世界中にアメリカンスタンダードを広めようとしていると思われかねない面もある。

たとえば、私が一日明泉幼稚園にいて感じたのだが、教材に日本人が登場しない。それを学ぶ子どもたちにも John とか Emily とか、英語風の名前を付けている。そのほうがネイティブの先生が、子どもの名前を呼びやすいのかもしれないが、無意識のうちに子どもたちに、英語は英米人のものという意識を植え付けていないだろうか。

いうまでもなく、世界の英語話者の中では英米人のネイティブはもはや少数派で、インド人など非ネイティブのほうが多い。

ストーリーも日本の話題や社会的なトピックが登場しないが、その辺は先生の裁量に任せ…ということなのだろうか。できれば、日本の文化や出来事を英語で紹介するというような、発信型の教材もローカル向けに加えてほしい。

本学での「保育英語コース」開設の可能性について

前述の名古屋短期大学では2013年度から「海外の保育と英語」という専門科目（2単位）を保育科に設置したが、「保育英語コース」についてはまだ検討中だそうである。

そこで本学で、全国に先がけて保育英語コースを設置し、保育英検の取得、海外保育研修を行い、英語活動に積極的な幼稚園・保育園・プリスクール／アフタースクールへの就職を指導すれば、全国から学生が集まり、国内外からの求人が集中するものと期待できる。

保育英語コースの開設には、いくつかのパターンが考えられる。

A名古屋短大と同様、短大本科一年次で海外保育研修を実施し、専攻科に保育英語コースを設け、海外での保育士資格取得も含めた指導を行う。
本科二年次から「保育英語」の専門科目を設置する。

B既存の常葉大学保育学部で保育英語コースを開設する。
一年次から保育英語の科目を設け、英語力に応じて3級または2級から保育英検を取得させ、海外保育実習も体験した上で、卒業までに保育英検準1級と、海外保育士資格の取得を目指す。
幼稚園教諭一種免許と日本の保育士資格も取得できる。
就職先は国内だけでなく、海外の日本人学校幼稚園なども視野に入れる。

C常葉大学教育学部に子ども学科を新設し、「子ども英語コース」と「保育英語コース」を設置。「子ども英語コース」は主として幼稚園や子ども英語スクールで「英語を教える」教員を養成するコースで、幼稚園教諭の他に保育士や、オプションでJ-SHINE（小学校英語指導者資格）、余力があれば小学校教諭の資格も取れるようにする。これは普通の小学校教諭ではなくて、現在、政府が「国際拠点特区」として設置を検討している「すべての科目を英語で教える小学校」の教員としても対応できるものとする。
ちょうど文部科学省が、小学校英語の開始時期を現行の5年生から3年生に早める方針を決め、5、6年生は正式な教科とし、授業時間も週3コマに増やすことにしたので、(2013-10-23朝日新聞デジタル) このコースはニーズが急増するだろう。

「保育英語コース」は、「英語で保育ができる保育者」の養成を行う。

保育士資格の他に幼稚園教諭一種免許も取得し、全国で急増している英語保育の幼稚園やプリスクール、英語学童保育施設などへの就職を目指す。

短期・長期の海外保育実習を行い、海外保育士資格の取得と海外の保育園や日本人学校の幼稚園等への就職も可能にする。保育英検2級～準1級を取得させる。

以上の案の中では、Aが最も変化が少なく現実的だが、短大保育科の四年制化を視野に入れると、B、C案も捨てがたい。瀬名キャンパスに四年制保育系学部を新設するなら、教育学部の知名度を活かしたC案が良いのではないだろうか。

参考文献、番組、ウェブサイト

- 朝日新聞デジタル (2013-4-19) 「保育所定員 40 万人増 首相表明 女性の力活用」
- NHK クローズアップ現代 (2013-7-24) 「深刻化する保育士不足」
- 朝日新聞デジタル (2013-8-31) 「小規模保育 3 つに分類 新認可制度、待機児解消狙う」
- 朝日新聞デジタル (2013-5-2) 「株式会社の認可保育所参入、自治体に緩和要請へ 厚労省」
- 朝日新聞デジタル (2013-4-12) 「米に配慮、かんぼ新商品認可せず TPP 日米協議合意」
- 朝日新聞デジタル (2013-4-8) 「大学入試に TOEFL 義務付けを」首相に自民提言
- 朝日新聞デジタル (2013-5-5) 「国家公務員採用に TOEFL 15 年度にも導入へ」
- 朝日新聞デジタル (2013-10-23) 「小学校英語、3 年生から文科省方針、コマ数も増加」
- 毎日新聞 (2013-10-18) 「国家戦略特区：方針決定外国人医師を解禁…再生本部」
- 日本経済新聞 (2013-3-13 夕刊) 「子供英語：英才教育小学校必修化、塾動く」
- 中日新聞 (2013-7-27 夕刊) 「バイリンキッズに!? 英語幼稚園増えてます」
- 鈴木克義 (2010) 「英語は小学校からでは遅すぎます！」幼年教育出版
- 鈴木克義 (2011) 「英語幼稚園・英語託児の必要性和将来性」常葉学園短期大学紀要
- 鈴木克義 (2012) 「子ども英語から保育英語へ」常葉学園短期大学紀要
- 名古屋短期大学保育科サイト (2012) 「海外実習、海外保育実習」
<http://www.nagoyacollege.ac.jp/edu-hoiku/abroad.html>
- 宮城明泉学園 (2013) ウェブサイト <http://www.meysen.ac.jp/>